

「綴プロジェクト」が「メセナアワード 2019」において
特別賞「文化庁長官賞」を受賞

キヤノン株式会社（以下 キヤノン）が、特定非営利活動法人 京都文化協会（以下 京都文化協会）と共同で取り組んでいる「綴プロジェクト」（正式名称「文化財未来継承プロジェクト」）が、公益社団法人 企業メセナ協議会（以下 企業メセナ協議会）が主催する「メセナアワード 2019」において特別賞「文化庁長官賞」を受賞しました。



メセナアワード 2019
ロゴマーク



デジタルカメラによる
文化財の撮影



高精細複製品を生かした
文化体験

「メセナアワード」は、企業によるメセナ（芸術・文化振興による豊かな社会創造）の充実と社会からの関心を高めることを目的に、企業メセナ協議会により 1991 年に創設されました。以来、前年度に実施されたメセナ活動を対象に選考および表彰が行われています。

このたび、149 件の対象案件の中から、大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞 1 件が選考され、キヤノンと京都文化協会が共同で取り組んでいる「綴プロジェクト」が、特別賞「文化庁長官賞」を受賞しました。「綴プロジェクト」は過去にも、「メセナアワード 2012」においてメセナ大賞部門「歴史をひもとく賞」を受賞しています。

今回の受賞では、「綴プロジェクト」が、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターとの共同研究プロジェクトを 2018 年に発足するなど、NPO や行政と連携し、幅広い層により深い文化体験ができる機会を創出していることや、技術力を進歩させ、時代の流れを捉えた活動の広がりや厚みにより、文化の発展に寄与していることが評価されました。

キヤノンはこれからも技術を生かした社会貢献活動を推進していきます。

なお、2019 年 11 月 20 日（水）14:00 より、東京・青山の「スパイラルホール」にて、贈呈式が開催される予定です。

<「綴プロジェクト」とは>

「綴プロジェクト」は、オリジナル文化財の保存と高精細複製品の活用を目的として、京都文化協会が主催し、キヤノンが共催して推進している社会貢献活動です。キヤノンの入力、画像処理、出力に至る先進のデジタル技術と、京都伝統工芸の匠の技との融合により、屏風や襖絵、絵巻物など古くから日本に伝わる貴重な文化財の高精細な複製品を制作して寄贈しています。2018年の第11期作品より、複製品の制作過程で使用するカメラやレンズなどの機材を刷新し※、これまでに以上に高精細な複製品を実現しています。

2007年からスタートした本プロジェクトは、海外に渡る以前の所有者などに寄贈する「海外に渡った日本の文化財」と、小・中学校の教科書に掲載の多い文化財などを対象に、教育現場で生きた教材として活用する「歴史をひもとく文化財」の2つのテーマのもと、毎年文化財を選定しています。葛飾北斎や俵屋宗達、雪舟の作品など、現在までに全51作品を寄贈しました。

※ 第11期作品より、制作で使用したカメラは「EOS 5D Mark IV」、レンズは「EF400mm F2.8L IS II USM」に変更。
第12期作品より、大判プリンターも「imagePROGRAF PRO-4000」に変更。

